

**千葉市ゆかりの画家 田岡春径による大壁画《妙見尊出現の図》の修復作業公開****概要**

千葉市では、令和8年(2026)に千葉のまちができて900年の節目となる「開府900年」を迎えます。本作品はその大きさと保存状態から現在非公開となっていますが、今回千葉開府900年記念事業の一環として修復を実施し、千葉市美術館にてその作業の様子を公開します。修復過程は写真、映像等で記録し、後日公開予定です。また、修復後の作品については、令和8年度に千葉市美術館等で予定している千葉開府900年記念事業にて披露する予定です。

**《妙見尊出現の図》について**

《妙見尊出現の図》は、昭和42年(1967)の千葉市立郷土博物館の開館にあわせ、市の依頼で制作された壁画です。縦3m60cm、横8m23cmという大画面に、《千葉妙見大縁起絵巻》(千葉県指定有形文化財、千葉市・栄福寺蔵)中の「結城野の合戦」の場面の図柄を参照し、千葉氏に関わる伝説をダイナミックに描いた迫力ある墨彩画作品です。

**田岡春径とは**

田岡春径(1887-1969)は、徳島県生まれで千葉市ゆかりの南画家。昭和4年(1929)帝展に初入選し、日展や日本南画院展で活躍しました。昭和のはじめに日本画家石井林響を慕って大網町宮谷(元大網白里町大網)移住し、房総の自然を鮮やかに描き、昭和28年(1953)頃からは千葉市稲毛町(現稲毛区)の松林に居を構え、千葉県内の芸術文化振興に尽くしました。地元の名士・文人として慕われ、主宰した「春葉会」には奈良屋百貨店の杉本郁太郎や千葉市長の宮内三朗、国松画廊の国松伽耶など、各界の錚々たるメンバーが名を連ねていました。本図は、春径81歳の最晩年、主だった弟子たちと共に、稲毛浅間神社の社務所で3ヶ月かけて制作されたというものです。



田岡春径《妙見尊出現の図》(部分)

**修復作業公開日**

報道関係の皆様を対象に、修復作業の様子を以下の日程で公開いたします。  
**2025年2月7日(金)11:00～(1時間程度)／5階ワークショップルームにて**  
ご取材をお申し込みの方は、下記までご連絡ください。

問い合わせ先

広報担当 磯野 愛  
Tel. 043-221-2313 (直通)  
isono@ccma-net.jp千葉市美術館  
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8  
HP. <https://www.ccma-net.jp/>